

## 『しあわせへの戒め』 エペソ人への手紙6章 1～4節 2015.5.10(日)母の日

『女が自分の乳飲み子を忘れようか。自分の胎の子をあわれまないだろうか。たとい、女たちが忘れても、このわたしはあなたを忘れない。』 イザヤ 49:15

◆この母の日に語られた言葉は、『あなたの父と母を敬え！これが第一の戒めである(エペソ 6:2)』という言葉。親子関係こそ、あらゆる人間関係の祝福の鍵なのだという。モーセの十戒の後半、人間関係への戒めは、『殺すな、姦淫するな、盗むな…』と続くが、『親子関係』は『殺すな』に優先するほど重要なのである。何故か？

◆ユダヤでは親の権威は絶大！結婚相手やその時期、しつけから命に関わることまで、その権限は絶対だった。それは、親がまことの神を恐れ敬い、神を正しく教える者だったからである(←申命記 6:7)。親の最大の責任は、人として正しく生きるための創り主なる神の御心を教え、その神を恐れ、感謝し、家族で共に神を喜ぶこと。◆しかし親と言えども不完全な存在である！子供を傷つけ、その子の恨みとなることもある。その傷は誰が癒し、本当に親を尊敬するにはどうするのか？詩篇 139:13～16に、創り主なる神が母の胎内で自分の内臓を造り、親がその子の姿を見ず、産声も聞く前に、『あなたの目は胎児の私を見ておられた』とある。胎内で命を育み、親よりもはるかに深く愛し慈んでくださるお方(本当の命の親)を知る時、肉親への恨み・憎しみから解放され、心は癒されていく。上記の御言葉(イザヤ 49:15)のように、創り主の愛は、見捨てず・決して忘れず・絶対に変わらない！心の問題からの解放は、①罪の告白と解放、②人生の諸問題と正しく向き合う方法を知る、そして③親や先祖の罪の為に代わりに祈り、解放されること(←ダニエル 9:8～19)だという(←『真理による自由』ジョン・パスター・カンフより)。

◆世界一の大富豪ロックフェラーは、母親の厳格な教えに忠実に従った人と言われる。母の遺言は次の通り。①実の親以上に神に仕えよ。②神の次に牧師に仕えよ。③礼拝は必ず所属教会で。④礼拝は最前列で。⑤ポケットに常に献金を。⑥目覚めたら聖書を読む。⑦毎朝、目標を立てて神に祈る。⑧寝る時に悔い改めを祈る。⑨人を助ける時は全力で。⑩誰も敵を作らない。

◆親子で創り主に聴き従い、神を恐れ敬い、神を讃美し感謝して生きることこそ本当の幸せであり、永遠の祝福と安息に至る希望なのである！